学校だより
3月号
やさしい子　たくましい子　考える子

黒門

令和5年3月1日
発行者 台東区立黒門小学校
校長 石田 隆

『感　謝』

校長 石田　隆

朝の街を包む光の強さと、植物の彩りから新しい季節の足音を感じます。教室では6年生を送る会等の卒業関連行事を前に、別れや感謝を伝える準備が進められています。時の流れを惜しみつつ、新しい出会いへの期待に胸を膨らませる春です。

「結」

この字には、**「連結する」**という意味もあれば、**「終結する・終える」**という意味もあります。まさに、3月はその時期です。現在の学年が終わる、そして次学年につながる月です。これは、単に暦が進む、時間が経過するということだけではありません。自分は現学年で身に付けるべきことを修めたか、また、次学年での課題は何か、それらを克服するための心構えができているかなど、学校生活を振り返り、進む方向を考える時だと思います。

特に6年生は、中学校というステージに立つための大切な準備期間です。6年間の積み上げがきちんとできているかを顧みる機会です。その上で、残りの小学校での時間をしっかりと味わいながら有意義に過ごしてください。

他学年も、年度が変わり新しい環境でのスタートとなりますが、**これまで培ってきた自分の力を信じて、これからの自分の成長を目指して、そして、黒門小学校の伝統を結んでいくのだという意識をもって学校生活を積極的に過ごして欲しい**と願っています。

＊＊＊

「6年生との会食」

今年度も、12月と2月に校長室で会食（黙食後の懇談形式　5人グループで12回に分けて）を行いました。私からの「黒門小の一番の思い出は？」「好きな給食は？」などの問いかけをきっかけにどの子も臆することなくおしゃべりをしてくれました。

「入学前も、親とこの椅子に座って校長先生、副校長先生と面談したなあ」「〇〇さんとはずっと同じクラスだったんですよ」「板井先生はおもしろかったなぁ」「校長先生は朝会で話すときに緊張しないんですか？」「5年初めは元1組・元2組で固まっていたけど、霧ヶ峰移動教室をきっかけにみんなが仲良くなったんです」…短い時間でしたが、**個々の成長や素直さ、可愛さ、友達間の和やかな関係、そして今まで私が気付かなかった一面などをたくさん感じました。**

＊＊＊

令和4年度は、コロナ禍ではありましたが感染拡大予防策を講じながら、日常の教育活動、校外学習、運動会や学芸会、4・5・6年生の宿泊行事、他校との連合行事などを実施することが出来ました。体験活動や異学年の交流、大勢の人前に立つ機会があることは、子供たちの成長にとって極めて大切であることをあらためて実感できました。次年度も安全安心に留意しながらより充実した学びの場を創っていきたいと考えます。

今年度も黒門小に関係する皆様の力をお借りして、「魅力ある学校」の創造に努めて参りました。ご理解・ご協力をいただきましたことを心より感謝し、お礼申し上げます。